

12-9-2

5-

大正九年九月一日

電通急電二二〇

日本電報

◎文、藏外三省毛焼失ス

既報、後大建築物ノ焼失判明セルモノ

一、文部省、

一、大藏省

一、外務省

ノ各省ナリ

◎御殿場死者七千余

御殿場ノ全滅セルコトハ既報ノ通りナル

が同方面ノ被害ノ重ナルモノハ紡績工場

ニテ強震アルヤ女工等ハ直千ニ閉鎖サレ

タル内ノ開放ヲ叫ビタルモ工場主ハ之ヲ

南カズ遂ニ倒潰シテ町民ノ命セテ七千人

ノ死傷者ヲ生じナリ

大正九年十月二十一日
電通急報

日本電報

◎横須賀市モ全滅ス

二日大阪至急報

二日朝横須賀条佐世保海軍無線電信所ニ
送信中ノモノヲ大阪無線電信所ニ傍受シ
タル如ニ依ルト。

西陛下ニハ御喪状アラセラレズ横須賀市
ハ全滅ナリ成ル可ク多量ノ飲料水蓄蔵品
食料ノ配給ヲセフ

トアリ (二日午後四時五十分着)

◎横浜ニテ判明ノ死者五萬

横浜市ニ於ケル死者今迄ニ判明シタルモ
ノハ五萬人ニ上リタリ。

(百千石四萬五千石)

大正九年九月百三號認可
電通急務二二

九、三、
日本電報

①伊東ノ流失家屋五百

伊豆伊東ヨリノ情報ニ依レバ海津ノ為メ
同町ノ流失家屋ハ五百戸ニ達シタリ

◎電信電話全ノ不通、

大坂二日至急報

二日午後一時二十分大坂市内某官廳ニ達
シタル報章ニ依レバ東京中央電話局ト中
央電信局トモ共ニ類焼シ從ツテ東京ニ對
スル電信電話ハ全ク交通期ハ判明セズ

(午後五時三十分)

大正九年九月三日種田可

通急信三

日本電報 九二

① 吳軍港より軍艦急行

○ 醫料藥品食料ヲ満載シテ

二日吳至急報

吳軍港ニテハ東京横浜ノ大震災及び火災ノ罹災民救助ノ為メ醫料藥品及び醫料器食料品并ハ海軍兵一千名ヲ軍艦天龍、平戸、扶桑、千歳 第十四駆逐艦 滿載シ本日午出港シ横須賀ニ向レリ。

(午後五時十分着)

② 実見者ノ談話

マ久通宮殿下事務官談

二日長野支向至急報

越後赤倉温泉ニ御滞在申ノ久通宮殿下御一家ニ東京全市ニ亘ル震災ノ報ヲ負シテ来レル同宮野村事務官ハ二日朝九時長野

（いん）

大正十一年十一月三日

九二
日 東 報

電 災 二 四

馱ニ到着シタルガ氏ノ談ニ依レバ

一日私ハ浅草ノ常盤座ニテ天勝ノ奇術ヲ

見物中強震ニ襲ハレ見物一同ノ共ニ飛ビ

出シタガ目ノ前ニ簾ヘタ十二階ハ見ル見

ル内ニ六階カラ真ニツニ折レ階位一体ニ

下敷キトナリ為茶若茶ニナツタ見ル階ハ

火ハ直チ燃ヒ廣ガリ私ハ一早ヤク宣家ニ

馳ケ付ケタルカ為ノ飛ビ出シ浅草公園ノ

廣場ニ出ルト水道ガ破裂シテ危リ電車が

停電セラ危リ火ハ八方ニ燃ヒ廣ガリ不忍

地味ニ出ツレバ向ヒ倒ハ猛火ニ包コレ物

博キ夫系ヲ室セラ危ル神田神社附近モ

路ナリ猛火ハ方ニ飛火レ上野ノ山ヨリ見

レバ帝國大塔ハ早ヤクモ燃ヒ上リ火勢ハ

物博ク駿河台デハニコラライニ後ツテ居

（つ）

本在九十九月百六日

電通急二五

日本電報

居ツタ、日本橋区方面及び浅草一面火災
 及タル猛火ニ包コレ内務省上警視廳も燃
 ヒ出シタノヲ見タ、第一師團ヨリ軍隊が
 出勤シテ消防及び罹災民ノ救助ニ努メテ
 居ツタ私ハ櫻田門ヲ面リ板ヶ布坂見附
 ヲ通ツタが此ノ方面ハ火勢未ダ猛烈デ
 ハナカツタ屋根ノ瓦墜落シ石垣ハ崩
 壞シテ危候甚ダシク步行スル事が出来ヌ
 一日ノ夜九時頃ニ幸シテ宮家ニ着ヘタガ
 此ノ時ノ報ニ依シバ横須賀市及び横浜市
 ハ全焼シ市中ノ半ハ海中ニ埋没シタト
 聞エタ此ノ頃ハ殆ンド全市ハ猛火ニ包マ
 レ只芝区青山ノ西方面ニハ火事ハナカツ
 タが家屋ハ倒潰ハ甚ダシク大宮高樓ノ
 倒潰モ見タ午三時頃攝政宮殿下ニハ

(ワシ)

全日本新聞 三卷 四十一
豊田 三十一 二七

日九二
日本 豊報

十萬斤米一千五百石多收量
海陸三途送せらるルハ上陸軍
大任命令書ヲ傳達ス

午後九時十五ト至
◎飛行偵察報告

波多建中尉ノ多田師團長ニ對
テ以東中ノ方面ノ状況報告スル如

シ
十一日午後一時五十分東京市内地

震中リ、市内倒壊房屋多ク
凡西人等ノ損害甚キヲ調査書

トナリ

ハ震害下同様ニ市内各所ニ火
災起リ神田区、日本橋区、

大正九年九月三日 三浦 電報

日本電報

橋也、浅草以下、右記の如くの特

種、其の如く、尚、延焼も、以て、

り、(一)百年迄、二時、十、五、(被、業)

三、重要官、物、の、下、取、の、後、失、の、に、

六

由、物、者、費、△大、藏、者、△之、部、者、

帝、室、井、上、官、理、者、△、院、軍、兵、科、

殿、△造、修、敷、△東、京、十、高、寺、

高、寺、

寺、

四、目下、在、事、各、如、以、後、の、如、く、好、備、

之、書、り、在、し、ん、い、以、外、國、の、事、曾、

志、其、千、年、奉、奉、各、部、隊、の、事、

大正九年九月廿九日
電通社之九

日北二
本電報

東京電報中七廿九日
動多聞故也

其陸軍部所理一部隊
以少中

内ノ好言備任云々云々
此ノ外自

勤事内衛生隊云々
一級電報

及糧食分配其他電報
其者

ノ救護之圖也全力ヲ
集中シテ

力セヨ云々

(午後九時迄ノ電報)

大正九年九月百種認可 九六

日本電報

① 山本の刺サレトス

(二日午後八時松本より来)

確カレル所 確博スル處ニシテハ

山本の二日午後三時内岡組織親
任、或終了ニ水交社ニ引揚ゲシカ三

時頃數名ノ暴行現ルシ 山本の

ヲ殺害セトシスルニ 山本の夫ニ

當テ巧道シテ其ノ妻ヲ誘キ

(午後八時三十分ニ至)

長正九年九月一日多種認可
電通為三々

日本電報

○震災実况視察

(名古屋支局系)

日本電報通信社名古屋支局員公今
二日午後三時汽船ニテ本社へ安否及
七震災実况視察ニトシリ

(二日午後九時十分)

○山葉辨東京弔問

(浜松茶煙)

日本樂器會社ノ大場專務行士八山
葉辨ヲ操縦シテ今二日朝十時三
十分東京高(リ)

(二日午後九時十分)

大正九年九月一日三種認可

要通紙三三

日九二

電報

市外へ通信聯絡断絶に至るに
船が急死也七十五食糧面其他
供給也云

(二〇年九月甲午了事)

◎二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

東軍被喜之状況
軍大臣より傳達
大が市外
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

二〇年八月甲午
二日朝人時所快奔之文
中尉 謙之

大正九年九月一日三種認可
電通石道三十四
日本三
電報

◎大地震因襲來り、

(大阪系連)

大阪則候所地震計ハ与テ日ニ類
々トシテ餘震ヲ感ジハ体ニ感ズル程
度ノモノモ數面アリ所爲ニ談ニ依ルト
比ノ餘震が無ケレバ大地震ガ因襲
來スル筈ナルガ餘震アルタメ今後ハ
些シタル兼ハアルマシ

◎大阪學生ノ慰問

大阪府農務課ニテハ中等學校學生々々
徒ノ牛ニ依リ畜畜好漁才法ヲ講究
スル事トナリ府下各高等女學生ヲ
シテパンビスケット仁丹等贈與セヌ

大正九年九月三日
電通急 三十号

九月二日
日本電報

食糧ノ懸向袋ヲ作成セシメ三百年前
中ニ懸(同夕六時出帆ノ船ニラ續公

(午後九時五十五分)

○戒嚴令爲メ入京不能

東京金市ニ亘リ戒嚴令ホカレ普通
人ハ一步ト雖モ東京市内ニ入レズ食
糧品ヲ提帶シテ入ルモノ外ハ之ヲ許
サ海軍ビルディング倒壊ス行衛不調
トナレルモノ一萬人以上アリ東京驛
ハ四五百ヲ降ク外全滅ス

(午後九時五十五分)

大東亜戦争の歴史

日本西報

◎新直社ハ白々ノミ残存

東京市内ニ在リタル新直社ハ僅カ東京
日々新聞ヲ降クノミニテ朝日時事
日本電報ヲ姓々全部焼失ス

◎丸ビルハ原形アルノミ

ト東飛行生ノ実見談

波多野中尉ニ同乗シ大改ニ着セル

東航空軍学校學生話ル

一日地震後尙モ無ク隊ノ無線電信
ニ神奈川県知事ヨリ横浜迄全市被災
ノ事又家屋倒壊ノ大災起リ死者
數萬ニ上ルトノ無線電信感不夜ニ
入り東京上空ハ天ヲ黒シ軍隊全部

大正九年九月三日
電通急三十七

日本電報

出勤シ彦城ヲ中ニ暴撃ニ任ズ余ハ
八時四十名ヲ引率シ麹町出勤新橋
ヨリ東京ニ入りシガ地上ノ急烈ニ至キ
又電車全部軌道外ニ飛出シ塵柱ハ
倒壊シ電燈ハ消ハ眞ノ闇夜ニテ此
ノ闇中ニ泣キ叫ブ者幼ノ声悲慘ヲ極
ム斯クスル内又太キノ搖反シ來リ歩行
困難ヲ感ジタリ此ノ頃十二階モ倒壊
シ燒ケ丸ビルハ燒ケテ屋タガ原秋ヲ
止メ丸ビルデインダ内ニ五百人余メ在
死者ヲ見タリ

彦城ハ僅ノ外壁ニ損傷アル程ナリ、
赤坂ヨリ慶々園ニ避ケテ官廳等ノ被
害大ニシテ帝室林野管理局ノ既ニ
燃ヘテ屋タ今朝八時東京赤坂ハ

不正行為身世用百三種設可大
電通三十八 日本電報

四存、本郷ノ一部ヲ残シ全部焼失シタ
リ飛行機上ヨリ見タル東京市街ハ
尚木盛ニ猛火ニ包マレ居タリ横浜市
街ハ殆ド下何者ヲモ残サズ荒野ノ如
クナリシ又小船ニ避難セルモノハ海
瀬ノ夕ヌ後ハレタリ